

# カリキュラムマップ

記入者名	医学教育センター
記入年月日	2019年4月1日
学部・研究科名	医学部
学科・専攻等名	医学科
コース等名	

	<p>理念・目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学・医療の専門知識と技術を教授し、豊かな人間性を涵養する。</li> <li>2. 医学・医療の変化、医師の社会的役割の変化への対応能力を育成する。</li> <li>3. 医学・医療の国際化に対応できる能力を育成し、国際的視野に立った医学の発展及び国際交流に努める。</li> <li>4. 医学・医療の知識・技術の発展に積極的に貢献し、創造的な人材を育成する。</li> </ol>	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな人間性と高い倫理性を持った医師、研究者を育成する。</li> <li>2. 問題提起能力及び自己開発能力を育成する。</li> <li>3. 実践的臨床能力と先進的医療への対応能力を育成する。</li> <li>4. 医学・医療分野での実践的英語能力を育成し、国際交流を推進する。</li> <li>5. 知的成果の積極的な公開とその応用を推進する。</li> <li>6. 医学・医療の向上を目指して、地域社会との交流を深める。</li> </ol>
--	---	---

	<p>Diploma Policy (DP)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療基盤力: 医学・医療において基盤となる知識を体系的に身に付け、その知識体系を文化・社会等の学際分野と関連付けて理解し、医学・医療の変化に対応し、新規課題に応用できる。</li> <li>2. 地域・国際対応力             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の保健・医療・福祉・介護および行政等との連携を理解し、地域における健康の増進と疾病の予防・治癒に貢献できる基本的な考え方を身に付ける。</li> <li>・ 医療環境や公衆衛生について国際的視野を持ち、人類・医学の歴史・社会・自然に関する知識を広く身に付け、医師の社会的役割の変化や国際化に対応できる。</li> </ul> </li> <li>3. 医療プロフェッナリズム             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 倫理観、教養を高め、豊かな人間性を涵養し、医師としての社会的責任を自覚して、自己の良心と社会の規範に従って行動し、基礎的な医療倫理問題に対処できる。</li> <li>・ 医師としての職責、多種多様な人間性と生命の尊厳について深い認識を有し、人の命と健康を守る医師としての職責を自覚する。</li> <li>・ 患者安全: 患者およびその家族の秘密を守り、患者の安全を最優先し、患者中心の立場で考えられる。</li> </ul> </li> <li>4. チーム医療力とコミュニケーション能力             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者と円滑にコミュニケーションを図り、相互尊重のもとに協調・共働してチーム医療ができる。また、目標実現のためにリーダーシップを発揮できる。</li> <li>・ 医療内容を分かりやすく説明する等、患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くことができる。</li> <li>・ 英語によるコミュニケーション能力を身に付け、情報収集・論述・国際交流ができる。</li> </ul> </li> <li>5. 自己開発力             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学の修学に積極的に取り組み、生涯にわたり自己研鑽を続ける習慣を身に付け、医学・医療の変化や医師の社会的役割の変化に対応できる自己開発力を身に付ける。</li> <li>・ ICT(Information &amp; Communication technology)活用能力を持つ。モラルに則り多様な情報を収集・分析して適正に活用する情報リテラシー能力を身に付け、的確なプレゼンテーションなどに活用できる。</li> </ul> </li> <li>6. 科学的探究力             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学・医療の知識や技術の向上に貢献できる創造的な意欲を有する。自ら課題を発見・提起して、論理的に思考し、解決への道筋を提案する。成果を文書と口頭で発表できる。</li> </ul> </li> <li>7. 総合的診療能力             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統合された知識・技能・態度に基づき、全身を総合的に診察する実践的能力を修得する。良好な医師患者関係を築けるコミュニケーション能力を有し、患者中心のチーム医療を安全に実践できる。(臨床推論力、基本的診療技能、実践的診療能力、医療安全力が必要)</li> </ul> </li> </ol>	
--	---	--

学部・研究科等のカリキュラム 学部・研究科等のDiploma Policy(DP) (◎=DP達成のために、特に重要な事項、○=DP達成のために、重要な事項、△=DP達成のために、望ましい事項)

ユニット名	授業科目の主題(前条書) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を前条書に記入する)	授業科目の到達目標(前条書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を前条書が主語で行為動詞を使用し、前条書に記入する)	1. 医療基盤力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッナリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	6. 自己開発力	6. 科学的探究力	7. 総合的診療能力	単位数
医学入門1	1. 今後、医学と医療の場におけるコミュニケーション技法を学ぶ上で必須の言語運用能力を養う。 2. 日本語論述と小グループでのディスカッションを中心に、演習を行うことを通じて高度な日本語運用能力を修得する。	1. 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。 2. 自らの考えを的確に他の人々に伝えることが可能な日本語の表現(口頭でも文書でも)ができる。 3. 他の人々の意見に接した際、その内容を整理し、正確に理解した上で、適切な言葉を用いて(口頭でも文書でも)反応することができる。 4. 限られた時間内に与えられたテーマの日本語の文章を書き上げることができる。 5. ある情報が提示されたときに、その内容を正確な言葉を用いて日本語の文章にまとめ上げることができる。 6. 医学を学ぶことの意義を述べることができる。 7. 小グループでの議論において、他者の意見を聞き、自分の意見を述べるができる。 8. 小グループでKJ法を用いたアイデアの分類・整理し結果をプレゼンテーションすることができる。	10 ○	10 ○	20 ◎	20 ◎	20 ◎	10 ○	10 ○	2
医学入門2	1. 今後6年間にわたって医学を学ぶにあたり、強い動機を改めて獲得し、自らの将来像を形成する。 2. 医学(教育・研究)ならびに医療(福祉)の現場を直接体験し、医学・医療の現状を認識する。	1. 患者の心理的および社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。 2. 患者のプライバシーに配慮し、患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 3. 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。 4. 小グループでの議論において、他者の意見を聞き、自分の意見を述べることができる。 5. 小グループでKJ法を用いたアイデアの分類・整理し、プレゼンテーションすることができる。 6. 病院での医療従事者の業務を理解し、医療現場におけるコミュニケーション能力と共感能力の重要性を具体例を用いて説明できる。 7. 解剖実習に参加し、解剖実習の意義と必要性を述べることができる。 8. 高齢者施設のあり方について自分の意見を持った上で、高齢者施設の中で簡単な介助を行うことができる。	10 ○	20 ◎	20 ◎	20 ◎	20 ◎	5 ○	5 ○	2
医療概論・倫理序説	1. 医学・医療の倫理問題全般を理解する。 2. 医学・医療の各領域の倫理問題に対する現在の考え方や解決のあり方について理解する。 3. 医療概論全般について理解する。	1. 医療倫理の歴史的な流れを概説できる。 2. 臨床倫理の歴史的な流れを概説できる。 3. 患者の基本的権利を概説できる。 4. 患者の自己決定権を概説できる。 5. 臨床諸領域における代表的な倫理問題を概説できる。 6. 倫理問題に対する解決法を4分割表を用いて概説できる。 7. キャリア形成のあり方について概説できる。	10 ○	10 ○	30 ◎	30 ◎	10 ○	10 ○		1

学部・研究科等のカリキュラム			学科・研究科等のDiploma Policy(DP) (◎=DP達成のために、特に重要な事項、○=DP達成のために、重要な事項、△=DP達成のために、望ましい事項)							
ユニット名	授業科目の主題(簡条書) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を簡条書に記入する)	授業科目の到達目標(簡条書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行動動詞を使用して簡条書に記入する)	1. 医療基礎力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッナリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	5. 自己開発力	6. 科学的探究力	7. 総合的診療能力	単位数
医療安全学	1. 医の原則について理解し、必要な態度を身につける。 2. 医事法学の要点について理解する。 3. 医療における安全性の確保のための必要事項を理解し、そのための態度を身につける。 4. 医師患者関係の重要性、患者中心のチーム医療の必要性を理解する。	1. 典型的事例において患者の権利尊重とインフォームド・コンセントを適用できる。 2. 医師の義務と裁量権を医事法学的に説明、例示できる。 3. 医療に関連する刑事責任・民事責任・社会的責任について説明できる。 4. 患者安全の確保のための注意事項やシステムを説明できる。 5. 医療上の事故等への対応と予防について説明できる。 6. 医師患者関係の重要事項を説明できる。 7. 患者中心のチーム医療の必要性を説明できる。	10 ○	10 ○	30 ◎	20 ◎			30 ◎	0.5
医療安全テュートリアル	1. 医療事故判例演習を通じて医事法学を具体的に理解する。 2. 医療事故事案について医事法学的に理解し、考察できる。 3. 医療における安全性の確保のための具体策を理解する。 4. 医師患者関係と患者中心のチーム医療の重要性を具体例を通じて理解する。	1. 具体例を通じて患者の権利とインフォームド・コンセントの重要性を説明できる。 2. 医療事故事案を通じて医師の義務と裁量権を医事法学的に説明できる。 3. 患者安全の確保のための具体策やシステムについて事例を通じて考察できる。 4. 判例演習を通じて医療事故への対処法と予防策を説明できる。 5. 医師患者関係と患者中心のチーム医療の重要性を具体例を通じて説明できる。	10 ○	10 ○	20 ◎	20 ◎	10 ○	10 ○	20 ◎	0.8
臨床倫理テュートリアル	1. 臨床倫理的アプローチ法を修得する。 2. 困難な臨床事例を題材として、医学的課題、生命・生活の質、自律、社会的側面からの分析を通して、異なる意見者との討論を経て、解決への道筋を探る能力を修得する。	1. 生と死に関わる倫理的問題を列挙できる。 2. 患者の基本的権利の内容を説明できる。 3. 医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や診療記録改訂の違法性について説明できる。 4. 患者の心理的および社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題を抽出・整理できる。 5. 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取り扱いができる。 6. 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。 7. 科学的根拠に基づいた医療の評価と検証の必要性を説明できる。	10 ○	10 ○	20 ◎	20 ◎	10 ○	10 ○	20 ◎	0.6
行動医学テュートリアル	1. 行動医学という学際領域について理解する。 2. 行動医学的な評価法・対応法を理解し、患者の行動や意思決定に効果的に関わる方法を考えられるようになる。	1. 人の行動の成り立ち、動機、ストレス、発達について説明できる。 2. 社会的要因、文化的要因や心理的要因が行動や健康に及ぼす影響について説明できる。 3. ストレスへの対応(ストレスコーピング、ストレスマネジメント)について説明できる。 4. コミュニケーションが健康維持や医療で果たす役割とその手法について説明できる。 5. 医療状況にある患者の治療や健康維持における行動医学的対応を提案することができる。	10 ○	10 ○	20 ◎	30 ◎	10 ○	10 ○	10 ○	0.6
基礎解剖生理学序説	1. 生命現象の基本を理解するために、人体の基本的な構造と機能、および生命現象に関わる基本的な分子の構造と機能を統合的に学習する。	1. 細胞を構成する要素と、各構成要素の機能を説明できる。 2. 細胞の基本的な機能について、説明できる。 3. 人体の階層性と位置関係を、的確な用語で説明できる。 4. 人体を構成する4つの組織について、それぞれの構造と機能を説明できる。 5. 人体の恒常性と、それを維持するしくみを説明できる。 6. 人体を構成する器管系について、それぞれの構造と機能を説明できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		0.5
基礎生化学序説	1. 生命現象の基本を理解するために、遺伝と代謝に関わる基本的な分子の構造と機能を統合的に学習する。	1. 生体の化学反応を触媒する酵素の構造と特徴を説明できる。 2. 生体内の異化反応と同化反応を説明できる。 3. DNAからタンパク質ができるまでを説明できる。 4. 染色体の構造と遺伝子発現調節を説明できる。 5. 細胞の増殖と制御を説明できる。 6. 発生過程における臓器形成メカニズムの基礎概念を説明できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		0.5
基礎生命実験医学	1. 生体組織の観察法とその原理を理解する。 2. 人体の各臓器が基本四大組織から構成されていることを理解する。 3. 動物を解剖し、臓器・器官の形態および位置関係を把握する。	1. 生物の微細構造の観察法について説明できる。 2. 長さ、重さ、容量の単位を説明できる。 3. 組織標本の作製法について説明できる。 4. 上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織の構造について説明できる。 5. 動物の解剖図を描き、臓器名称を記入できる。 6. 動物細胞の構造について説明できる。	60 ◎			△	10 ○	30 ◎		0.5
発生学	1. 有性生殖と受精のシステムを理解する。 2. 受精卵から細胞分化とその制御の仕組みを理解する。 3. 胚葉分化から臓器形成への過程と各臓器の発生起源を把握する。	1. 生殖細胞の形成過程を説明できる。 2. 哺乳類の受精と胚盤帯の特徴について説明できる。 3. 胚盤と胚葉形成について説明できる。 4. 着床と胎盤の構造について説明できる。 5. 胚内体腔の形成について説明できる。 6. 神経胚形成と各胚葉からの器管系形成を概説できる。 7. 胎児・胎盤系の発達過程での機能・形態的变化を説明できる。 8. 主な先天性疾患について発生機序、病態整理を概説できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		0.5
医用統計学・医用AI学	1. 統計学の基本的な用語、解析方法を理解する。 2. 生命現象の不確定性を統計的に客観的に評価する考え方を学習する。 3. 医学における統計学の意義と限界について理解する。 4. 機械学習の統計的解析との違いを理解する。 5. 機械学習の分類・アルゴリズムを習得し、適用範囲を理解する。	1. 科学的根拠に基づいた医療の評価と検証の必要性を説明できる。 2. 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。 3. 2群間の平均値の差を検定できる。 4. 3群以上の間の平均値の差を分散分析を用いて検定できる。 5. 独立2群、または独立多群の順序変数データの検定を行える。 6. 2変量間の回帰係数と相関係数を求め、その意味の違いを説明できる。 7. 多変量解析の基本的な概念と解析結果を説明できる。 8. 機械学習について種類と特徴を説明できる。	50 ◎				20 ◎	30 ◎		0.5

学部・研究科等のカリキュラム			学科・研究科等のDiploma Policy(DP) (◎＝DP達成のために、特に重要な事項、○＝DP達成のために、重要な事項、△＝DP達成のために、望ましい事項)							
ユニット名	授業科目の主題(簡条書) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を簡条書に記入する)	授業科目の到達目標(簡条書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主体で行い説明を使用して簡条書に記入する)	1. 医療基礎力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッショナルリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	5. 自己開発力	6. 科学的探究力	7. 総合的診療能力	単位数
システムバイオインフォマティクス	1.今世紀に入り、要素還元的生命科学の研究手法から統合的手法へのパラダイムシフトの中核をなすシステムバイオロジーの考え方と応用について学ぶ。 2.その爆発的な普及の基盤となった分子レベルの知識習得を可能にしたバイオインフォマティクスの解析手法について学習する。 3.近年急速に発展している機械学習の基礎と実用について学習する。	1.システムバイオロジーの考え方を説明できる。 2.シミュレーションとは何か説明できる。 3.バイオインフォマティクスの適用範囲を説明できる。 4.ゲノム解析のプロセスを説明できる。 5.機械学習の分類を説明できる。 6.それぞれの機械学習の分類における主要なアルゴリズムを挙げる事ができ、それぞれについて説明できる。	30 ◎				30 ◎	40 ◎		0.5
外皮筋骨格系	1.骨の形態と代謝、骨の人体における役割を説明できる。 2.筋の形態と代謝・収縮メカニズム、筋の人体における役割を説明できる。 3.皮膚の形態と角化・色素沈着メカニズム、皮膚の人体における役割を説明できる。	1.人体を構成する骨の名称を挙げ、肉眼レベルで形態的特徴を説明できる。 2.骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。 3.骨・軟骨・関節・靭帯・腱の組織形態と機能を説明できる。 4.人体を構成する筋の名称を挙げ、肉眼レベルで形態的特徴を説明できる。 5.筋・筋紡錘・腱器官の組織形態と筋の収縮メカニズムについて説明できる。 6.皮膚の組織構造を図示して説明できる。 7.皮膚の細胞動態と角化、メラニン色素沈着等の機構を説明できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		1
循環・呼吸器系	1.人体における循環・呼吸器系の役割を正確に位置づけるため、関連する構造と機能及びその制御機構を統合的に理解する。	1.循環器系を構成する器官と、各器官の微細構造について説明できる。 2.呼吸器系を構成する器官と、各器官の微細構造について説明できる。 3.循環・呼吸器系の形成過程について、説明できる。 4.換気、拡散、肺循環、呼吸調節について、呼吸生理学の観点から説明できる。 5.血液中の酸素と二酸化炭素の運搬の仕組みについて、説明できる。 6.心臓の電気的特性について、説明できる。 7.心臓の力学的特性について、説明できる。 8.脈管系における循環とその調節機構について説明できる。 9.循環・呼吸器系の主な疾患の病態について、構造や機能の異常と関連づけて説明できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		1.3
消化器系	1.消化器系に属する臓器とその構造を把握する。 2.栄養摂取(消化・吸収)とその制御システムを理解する。 3.消化・吸収に関わる重要な分子と化学反応を理解する。	1.消化器系臓器の位置、形態と支配血管を図示できる。 2.消化管各部の組織構造の共通点と違いを説明できる。 3.消化管付属臓の組織と機能を説明できる。 4.消化・呼吸器系各器官の発生過程を概説できる。 5.消化管運動と自律神経による制御を説明できる。 6.消化管における消化・吸収と吸収した物質の輸送経路を説明できる。 7.消化管の正常細菌叢の役割を説明できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		0.8
泌尿・生殖器系	1.泌尿器・生殖器に属する臓器とその構造を把握する。 2.尿産生とその制御が体液・血液成分の恒常性維持に与している事を理解する。 3.配子形成過程と生殖に関わる生理システムを理解する。	1.腎・尿路系臓器の位置・形態と血管分布・神経支配を説明できる。 2.腎の組織構造と尿産生の機序について説明できる。 3.体液量および組成・浸透圧の調節と腎機能との関係を説明できる。 4.蓄尿の機序を説明できる。 5.性分化と生殖器の発生の過程を説明できる。 6.男性生殖器の形態と機能を説明できる。 7.精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる。 8.勃起・射精の機序を説明できる。 9.女性生殖器の形態と機能を説明できる。 10.性周期発現と排卵の機序を説明できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		1
肉眼解剖学実習	1.肉眼解剖学的構造の剖出と系統的観察ができる。 2.人体の構造的構成と機能的構成を統合的に説明できる。 3.生命の尊厳と協働性の重要性、献体の意義について述べる事ができる。	1.皮膚・筋・骨格・末梢神経系の肉眼解剖学的剖出と構造観察、形態・機能の統合的説明ができる。 2.循環器系臓器の肉眼解剖学的剖出と構造観察、形態・機能の統合的説明ができる。 3.呼吸器系臓器の肉眼解剖学的剖出と構造観察、形態・機能の統合的説明ができる。 4.消化器系臓器の肉眼解剖学的剖出と構造観察、形態・機能の統合的説明ができる。 5.泌尿・生殖器系臓器の肉眼解剖学的剖出と構造観察、形態・機能の統合的説明ができる。 6.内分泌器の肉眼解剖学的剖出と構造観察、形態・機能の統合的説明ができる。 7.免疫・リンパ系臓器の肉眼解剖学的剖出と構造観察、形態・機能の統合的説明ができる。	50 ◎		10 ○	10 ○	10 ○	20 ◎		3.5
組織学実習	1.人体各臓器の組織学的特徴を把握する。 2.組織標本を顕微鏡で観察しスケッチで表現し、説明する。 3.組織構造の特徴を簡潔な文章で表現する。	1.生体組織標本を扱い方と、顕微鏡観察の意義について説明できる。 2.生体組織の形態的・構造的特徴をスケッチと簡潔な文章によって表現することができる。 3.組織標本を示して解説することができる。 4.各器官系の臓器が持つ細胞及び組織構築の特徴を図示し、説明できる。 5.各器官系の臓器の機能について、細胞および組織学構造との関連を説明できる。 6.組織標本または組織の画像を観察し、その臓器を判別できる。 7.組織標本から課題を見出しグループ学習により解決方法を見出すことができる。	40 ◎		10 ○	10 ○	10 ○	20 ◎	10 ○	1.4

学部・研究科等のカリキュラム		学科・研究科等のDiploma Policy(DP) (◎=DP達成のために、特に重要な事項、○=DP達成のために、重要な事項、△=DP達成のために、望ましい事項)							単位数	
ユニット名	授業科目の主題(簡条書) (この授業科目における中心となる 目・問題・テーマ等を簡条書に記入す る)	授業科目の到達目標(簡条書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を 学生が主語で行い動詞を使用し記入する)	1. 医療基礎力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッナリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	5. 自己開発力	6. 科学的探究力		7. 総合的診療能力
統合組織学演習	1.組織標本または組織画像の特徴を把握し、臓器を鑑別する。 2.臓器の構成細胞および組織構築と生理学的・生化学的知見との関連を理解する。 3.組織所見に関する疑問や学習課題を見つ出し、その解決方法を探索する。	1.組織標本または組織の画像を観察し、その臓器を鑑別し、説明できる。 2.人体の生理的システムに属する各臓器の機能について、組織学的関連を説明できる。 3.組織・細胞の構造的特徴を、人体の生理的・生化学的知見に関連付けて説明できる。 4.組織所見に関する疑問点や学習課題を自ら発見することができる。 5.課題の解決方法のために自学自習とグループ学習をすることができる。 6.疑問点や学習課題に関する説明をわかりやすく行うことができる。	40 ◎		10 ○	10 ○	10 ○	20 ◎	10 ○	1
血液・免疫系	1.人体の生命システムにおける血液・免疫系の役割を理解する。 2.血液・免疫系の構造と機能およびその制御機構について液性・細胞性情報の観点から統合的に理解する。 3.血液・免疫系に関する病態を理解し、その治療法の基礎を学習する。	1.生体防御機構の系統発生と個体発生を概説できる。 2.生体の非特異的防御機構を説明できる。 3.特異的防御機構である免疫系の役割を説明できる。 4.生体防御機構における免疫系の特徴(特異性、多様性、寛容、記憶)を説明できる。 5.がん免疫に関わる細胞性機序を概説できる。 6.造血幹細胞から各血球への分化と成熟の過程を説明できる。 7.白血球の種類と機能を説明できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		1
内分泌系	1.人体における各内分泌腺の構造について、液性情報の観点から理解する。 2.人体における内分泌系の機能と分泌制御機構について統合的に理解する。	1.視床下部と下垂体の構造、分泌されるホルモンの作用と分泌調節を説明できる。 2.甲状腺と副甲状腺から分泌されるホルモンの作用と分泌調節を説明できる。 3.副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節を説明できる。 4.膵島の構造と分泌されるホルモンの作用を説明できる。 5.乳汁分泌に関わるホルモンの作用を説明できる。 6.卵巣の構造、性周期発現と排卵の機序、女性ホルモンの作用を説明できる。 7.精巣の組織構造、男性ホルモンの作用と分泌調節を説明できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		0.5
感覚器・末梢神経系	1.人体の生命システムにおける感覚器系と末梢神経系の役割を説明できる。 2.感覚器系について、構造と機能を統合的に説明できる。 3.脳神経と脊髄神経について、構造と機能を統合的に説明できる。	1.皮膚感覚系について、構造と機能を統合的に説明できる。 2.眼球および視覚系について、構造と機能を統合的に説明できる。 3.外耳・中耳・内耳(聴覚・平衡覚系)について、構造と機能を統合的に説明できる。 4.嗅覚系について、構造と機能を統合的に説明できる。 5.味覚系について、構造と機能を統合的に説明できる。 6.脊髄神経系(自律神経系を含む)について、構造と機能を統合的に説明できる。 7.脳神経系(自律神経系を含む)について、構造と機能を統合的に説明できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		0.5
中枢神経系	1.人体における、脳各部位の構造と機能を統合的に理解する。 2.人体における、脊髄の構造と機能を統合的に理解する。	1.脊髄の構造、機能と伝導路を説明できる。 2.脳幹の構造、機能と伝導路を説明できる。 3.大脳皮質の構造と機能局在を説明できる。 4.小脳の構造と機能を概説できる。 5.視床の構造と機能を概説できる。 6.大脳基底核(線条体、淡蒼球、黒質)の線維結合と機能を概説できる。 7.大脳辺縁系の構造と機能を自律機能や高次機能と関連づけて概説できる。 8.視床下部の構造と機能を自律機能と関連づけて概説できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		1
脳実習	1.脳の解剖学的構造の創出と系統的観察ができる。 2.脳の構造的構成と機能的構成を統合的に説明できる。 3.主要な出血・梗塞・脳動脈瘤・腫瘍・脳萎縮を観察し、説明することができる。	1.脳膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環を説明できる。 2.脳の血管支配と主なる病変(出血・梗塞・脳動脈瘤)を説明できる。 3.脳神経の構造と機能、脳幹の構造と部位の同定、主な伝導路を説明できる。 4.小脳の構造と部位の同定、小脳の機能を概説できる。 5.大脳基底核(線条体、淡蒼球、黒質)の構造と部位の同定、線維結合と主なる機能を概説できる。 6.大脳辺縁系(大脳辺縁系、海馬、扁桃体等)の構造と部位の同定、線維結合と主なる機能を概説できる。 7.大脳皮質の構造と部位の同定と機能局在(運動野・感覚野・言語野・連合野など)と高次機能を説明できる。	50 ◎		10 ○	10 ○	10 ○	20 ◎		0.5
機能系実習	1.決められた様式にしたがって実験し、実習結果を文書と口頭で発表できる。 2.コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。	1.細胞内液・外液のイオン組成、浸透圧と静止電位を説明できる。 2.細胞内シグナル伝達過程を説明できる。 3.薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性および活性薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。 4.心筋細胞の電気現象と心臓の興奮(刺激)伝導系、心周期を説明できる。 5.肺気量と肺・胸郭系の圧・容量関係(コンプライアンス)を説明できる。 6.腎糸球体における濾過の機序、尿細管における再吸収・分泌機構を説明できる。 7.視覚・聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 8.脊髄反射運動や髄体路を中心とした随意運動の発現機構を概説できる。	50 ◎		10 ○	10 ○	10 ○	20 ◎		1

学部・研究科等のカリキュラム			学科・研究科等のDiploma Policy(DP) (◎=DP達成のために、特に重要な事項、○=DP達成のために、重要な事項、△=DP達成のために、望ましい事項)							
ユニット名	授業科目の主題(簡条書) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を簡条書に記入する)	授業科目の到達目標(簡条書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行動動詞を使用して簡条書に記入する)	1. 医療基礎力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッナリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	5. 自己開発力	6. 科学的探究力	7. 総合的診療能力	単位数
細胞生物エネルギー学	1.臓器の形成(発生)・修復(再生)維持(ホメオスタシス 代謝)の概略を学ぶ 2.生体の生命維持に必要なエネルギー代謝を理解するために、生体酸化とATP合成に関わるタンパク質や酵素の構造と機能ならびにその統合と制御機構を学ぶ。	1.再生医学への応用の視点から臓器形成メカニズムを概説できる。 2.糖代謝、解糖、TCA 回路、電子伝達系、酸化的リン酸化によるATPの産生を説明できる。 3.脂質の合成と分解を説明できる。 4.蛋白質の合成と分解、アミノ酸の異化と原素合成の経路を説明できる。 5.ヌクレオチドの合成・異化・再利用経路を説明できる。 6.酵素の機能と調節について説明できる。 7.空腹時(飢餓)、食後(過食時)と糖尿病、運動時における代謝を説明できる。 8.ホルモンの構造・作用機序、ホルモン分泌の調節機構を説明できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		1
分子細胞生物学	1.生体機能の営みを分子のレベルで理解するために、遺伝子の構造と複製、転写から翻訳までの機構を知り、遺伝子産物による細胞機能発現のしくみと遺伝子異常がもたらす疾病の分子基盤を学ぶ。	1.RNA合成、タンパク質の合成および成熟と分解を説明できる。 2.染色体の構造と遺伝子発現制御を説明できる。 3.DNAの複製と修復およびゲノムの変動を説明できる。 4.細胞内輸送、細胞骨格、細胞周期と細胞分裂の制御を説明できる。 5.細胞の情報伝達、細胞分化と細胞死、組織の形成を説明できる。 6.遺伝子およびがん関連遺伝子と病気を説明できる。 7.遺伝子工学的手法を説明できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		1
統合薬理学	1.薬物と生体との相互作用およびその作用機序を理解する。 2.薬物の相互作用や有害作用を踏まえ、疾患の治療や予防に適した薬物を選択する能力を身につける。	1.薬物作用の基本的な様式、原理を理解し、説明できる。 2.生体内薬物動態とそれに関する因子を列挙できる。 3.薬物治療で問題となる薬物と生体の相互作用を説明できる。 4.主な薬物の薬理作用を説明できる。 5.主な薬物の作用点および作用機序を説明できる。 6.主な薬物の有害作用を説明できる。 7.疾患の治療や予防に適した薬物選択を薬理作用と作用機序から説明できる。 8.薬が開発される手順と薬効評価法を説明できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		1
生化学実習	1.基本的な生化学実験手法を習得しながら生命現象を化学量論的に考察する能力を養うために、生体を構成する基本的な物質の化学特性と物学的機能を利用して生体試料中の物質の定量や機能評価を行う。	1.滴定曲線と緩衝液の調製および蛋白質の定量を行い、その原理と操作法を説明できる。 2.DNAの分離と定量を行い、その原理と操作法を説明できる。 3.組織の酸溶性を測定し、その原理とエネルギー代謝における意義を説明できる。 4.酵素活性を測定し、その原理と意義を説明できる。 5.血清の蛋白質と脂質を分離し、その原理と蛋白質および脂質の化学的性質を説明できる。 6.尿中の窒素成分を測定し、その原理と蛋白質を含めた窒素代謝全般について説明できる。	50 ◎		10 ○	10 ○	10 ○	20 ◎		1
細胞生理化学演習	1.人体の生理機能及び病態を分子レベルで理解するため、細胞の生理過程ならびに病理過程を機能分子の働き面から理解し、疾病の病態と治療の分子基盤について統合的に学ぶ。	1.各種の疾病の病態と治療の分子基盤を分子レベルで説明できる。	50 ◎		10 ○	10 ○	10 ○	20 ◎		1
基礎病理学総論	1.病気とは何かを理解する。 2.病気の成り立ちを理解する。 3.腫瘍とは何かを理解する。	1.健康と病気の違いについて説明できる。 2.細胞・組織を障害する刺激因子を列挙し、刺激因子が細胞・組織を障害するメカニズムを説明できる。 3.循環障害、炎症、免疫異常、感染、代謝障害に関する医学用語(梗塞、炎症、アレルギーなど)を正しく理解し説明できる。 4.循環障害、炎症、免疫異常、感染、代謝障害という側面から、病気の成り立ちを説明できる。 5.腫瘍とは何かを説明できる。 6.腫瘍が発生するメカニズムを説明できる。 7.良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。	60 ◎				10 ○	30 ◎		1
臨床病理学1	1.病理学総論で学んだことを応用し、諸臓器に生じる疾患の特徴・成り立ちを理解する。	1.循環器系の主要疾患の特徴・成因を説明できる。 2.呼吸器系の主要疾患の特徴・成因を説明できる。 3.神経系の主要疾患の特徴・成因を説明できる。 4.視覚・感覚器系の主要疾患の特徴・成因を説明できる。 5.血液・造血器・リンパ系の主要疾患の特徴・成因を説明できる。 6.内分泌・栄養・代謝系の主要疾患の特徴・成因を説明できる。	60 ◎				10 ○	20 ◎	10 ○	1
臨床病理学2	1.病理病態学を臨床医学に応用するために、右記の諸臓器に生じる先天異常、物質代謝障害、循環障害によって引き起こされる疾患の病理学的知識を習得する。 2.病理病態学を臨床医学に応用するために、右記の諸臓器に生じる炎症性疾患の病理学的知識を習得する。 3.病理病態学を臨床医学に応用するために、右記の諸臓器に生じる腫瘍性疾患の病理学的知識を習得する。	1.消化器に生じる主な先天異常、物質代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症および腫瘍性疾患についてその病因と病理学的特徴を説明できる。 2.乳腺および女性生殖器に生じる主な先天異常、物質代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症および腫瘍性疾患についてその病因と病理学的特徴を説明できる。 3.腎・泌尿器系に生じる主な先天異常、物質代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症および腫瘍性疾患についてその病因と病理学的特徴を説明できる。 4.男性生殖系に生じる主な先天異常、物質代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症および腫瘍性疾患についてその病因と病理学的特徴を説明できる。 5.骨軟部および皮膚に生じる主な先天異常、物質代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症および腫瘍性疾患についてその病因と病理学的特徴を説明できる。	60 ◎				10 ○	20 ◎	10 ○	1



学部・研究科等のカリキュラム		学科・研究科等のDiploma Policy(DP) (◎＝DP達成のために、特に重要な事項、○＝DP達成のために、重要な事項、△＝DP達成のために、望ましい事項)								
ユニット名	授業科目の主題(簡条書) (この授業科目における中心となる題目・周題・テーマ等を簡条書に記入する)	授業科目の到達目標(簡条書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主体で行い達成できるように簡条書に記入する)	1. 医療基礎力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッショナリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	5. 自己開発力	6. 科学的探究力	7. 総合的診療能力	単位数
病原細菌学	1.病原細菌とその感染について医学士として必要な知識を身につける。 2.病原細菌について生化学、分子生物学などの基礎的理解の上に立ってその特徴を理解する。 3.病原細菌とその感染症について診断、治療、予防・対策及び関連した法律を習得する。	1.病原細菌の分類、形態、培養について説明できる。 2.病原細菌の分子遺伝学を理解し、複製機構について説明できる。 3.病原細菌の化学療法と薬剤耐性を理解し、説明できる。 4.病原細菌の感染症の診断、鑑別、治療、予防・対策を理解し、説明できる。 5.病原細菌の感染症に関わる法規を理解し、説明できる。	60 ◎	10 ○			10 ○	20 ◎		1
ウイルス医動物学	1.感染症を理解するために、病原体のうちのウイルスと寄生虫等の性状および作用と、それに対する生体反応を理解する。 2.ウイルス感染症と寄生虫感染症の病態を理解する。 3.ウイルス感染症と寄生虫感染症に対する治療法の基礎的知識を習得する。	1.構造と性状によりウイルスを分類できる。 2.ウイルス感染の種特異性、組織特異性と病原性を説明できる。 3.主な感染様式の具体例を説明できる。 4.構造と性状によりウイルスを分類できる。 5.主な感染症の原因となる病原体を分類できる。 6.寄生虫の生活史、感染経路と感染疫学的重要性を説明できる。 7.寄生虫の診断、治療と予防の概要を説明できる。	60 ◎	10 ○			10 ○	20 ◎		1
病原生物学実習	1.病原生物(細菌、ウイルス)とそれに伴う生体反応、生体防御について必要な知識を習得する。 2.各病原生物の基礎生物学の特性と病原性を理解し、各病原生物の鑑別ができる技術を習得する。 3.免疫応答の基本的概念を理解し、その医学的評価法や測定法に関する技術を学習する。	1.細菌の構造を図示し、形態と染色性により分類できる。 2.Gram(グラム)陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。 3.Gram(グラム)陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。 4.Gram(グラム)陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、ペスト菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、結核菌、ブルセラ菌、レジオネラ菌、インフルエンザ菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。 5.原虫類・蠕虫類の分類および形態学的特徴を説明できる。 6.白血球の種類と機能を説明できる。 7.体液性と細胞性免疫応答を説明できる。	40 ◎	10 ○	10 ○	10 ○	10 ○	20 ◎		0.5
病理組織実習1	1.これまでに学んだ病理病態学の知識を再確認するために、実際に病理組織標本を鏡検し、種々の疾患の病理形態学的特徴について理解を深める。	1.循環器系の主要疾患の病理組織学的特徴を説明できる。 2.呼吸器系の主要疾患の病理組織学的特徴を説明できる。 3.神経系の主要疾患の病理組織学的特徴を説明できる。 4.眼・視覚系の主要疾患の病理組織学的特徴を説明できる。 5.血液・造血器・リンパ系の主要疾患の病理組織学的特徴を説明できる。 6.内分泌・栄養・代謝系の主要疾患の病理組織学的特徴を説明できる。	40 ◎		10 ○	10 ○	10 ○	20 ◎	10 ○	1.5
病理組織実習2	1.これまでに学んだ病理病態学の知識を再確認するために、右記の諸臓器に生じる先天異常、物質代謝障害、循環障害によって引き起こされる疾患の病理組織標本を実際に鏡検し、その病理形態学的特徴について理解を深める。 2.これまでに学んだ病理病態学の知識を再確認するために、右記の諸臓器に生じる炎症性疾患の病理組織標本を実際に鏡検し、その病理形態学的特徴について理解を深める。 3.これまでに学んだ病理病態学の知識を再確認するために、右記の諸臓器に生じる腫瘍性疾患の病理組織標本を実際に鏡検し、その病理形態学的特徴について理解を深める。	1.消化器に生じる主な先天異常、物質代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症および腫瘍性疾患の病理組織像について説明できる。 2.乳腺および女性生殖器に生じる主な先天異常、物質代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症および腫瘍性疾患の病理組織像について説明できる。 3.腎・泌尿器に生じる主な先天異常、物質代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症および腫瘍性疾患の病理組織像について説明できる。 4.男性生殖器に生じる主な先天異常、物質代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症および腫瘍性疾患の病理組織像について説明できる。 5.骨軟部および皮膚に生じる主な先天異常、物質代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症および腫瘍性疾患の病理組織像について説明できる。	40 ◎		10 ○	10 ○	10 ○	20 ◎	10 ○	1.5
環境・予防医学	1.環境が健康に与える影響について学習する。 2.環境による影響に基づく疾患を学習する。 3.環境の影響に基づく疾患の予防を学習する。	1.環境が健康に与える影響について理解する。 2.疾患の発症機序の1つとして環境の影響を理解する。 3.食中毒について理解する。 4.大気汚染・土壌汚染・水環境について理解する。 5.腫瘍がんについて理解する。 6.アレルギー・化学物質過敏症について理解する。	20 ○	40 ◎	10 ○	10 ○	10 ○	10 ○		1
衛生統計・保健医療学	1.医学分野における統計を理解する。 2.健康保険について学ぶ。 3.高齢者・母子・精神関連の保健福祉について学ぶ。	1.医学分野における統計を理解する。 2.健康保険について理解する。 3.高齢者・母子保健について理解する。 4.学校保健について理解する。 5.精神保健福祉について理解する。 6.国際保険について理解する。	20 ○	40 ◎	10 ○	10 ○	10 ○	10 ○		1
生活習慣病・疫学・地域医療	1.医療制度について学習する。 2.生活習慣病の発症機構・予防について学習する。 3.疫学について学習する。	1.医療政策について理解する。 2.生活習慣病の発症機構・予防について理解する。 3.精神医療について理解する。 4.分子疫学を含めた疫学全般について理解する。 5.国民栄養について理解する。 6.災害医療について理解する。 7.感染症について理解する。	20 ○	40 ◎	10 ○	10 ○	10 ○	10 ○		0.5

学部・研究科等のカリキュラム			学科・研究科等のDiploma Policy(DP) (◎＝DP達成のために、特に重要な事項、○＝DP達成のために、重要な事項、△＝DP達成のために、望ましい事項)							
ユニット名	授業科目の主題(簡条書) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を簡条書に記入する)	授業科目の到達目標(簡条書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主題で行行動調を使用して簡条書に記入する)	1. 医療基礎力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッショナルリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	5. 自己開発力	6. 科学的探究力	7. 総合的診療能力	単位数
法医学	1.異状死と死体検案について具体的に理解する。 2.死亡診断書・死体検案書を適切に作成できる。 3.死後変化と生活反応を理解する。 4.外因死を列挙し、内容を理解する。 5.内因死・突然死について法医学的要点を理解する。 6.法医学中毒とアルコール・アディクション医学を理解する。 7.多型学、個人識別の方法を理解する。	1.異状死と死体検案について具体的に説明できる。 2.死亡診断書・死体検案書を適切に作成できる。 3.死後変化と生活反応を説明できる。 4.創傷の記載ができ、外因死を列挙して内容を説明できる。 5.内因死・突然死について説明し、典型例の要点を列挙できる。 6.法医学中毒とアルコール・アディクション医学の要点を説明できる。 7.個人識別の方法と多型学の要点を説明できる。	20 ○	10 ○	30 ◎	10 ○	10 ○	10 ○	10 ○	1.5
社会医学基本実習	1.メンタルヘルスについて学ぶ。 2.環境リスク測定について学ぶ。 3.疫学について学ぶ。	1.職場環境でのメンタルヘルスについて理解する。 2.大気汚染のリスクについて測定法を理解する。 3.騒音・振動の身体への影響について理解する。 4.実地調査について理解する。 5.疫学の演習を通じて理解を深める。	10 ○	30 ◎	10 ○	30 ◎	10 ○	10 ○	10 ○	0.8
社会医学課題実習	1.地域医療を実地の場で学ぶ。 2.地域保健活動を実地の場で学ぶ。	1.過疎地域での医療を理解する。 2.高齢者の多い地域での保健活動を体験する。	10 ○	30 ◎	10 ○	30 ◎	10 ○	10 ○	10 ○	2
生命医科学テュートリアル	1.対象とする分野について問題発見を行う。 2.自学自習とグループ学習を通じて問題解決を行う。 3.学習内容を明快にプレゼンテーションする能力を身につける。	1.対象とする分野について独自の視点で問題点を発見することができる。 2.問題の解決のために科学的根拠となる情報を収集し、学習することができる。 3.問題解決のための仮説を組み立てることができる。 4.グループ学習により自己学習の内容を改善することができる。 5.問題点に対する学習内容をまとめ明快にプレゼンテーションを行なうことができる。	10 ○	5 ○	20 ◎	20 ◎	20 ◎	20 ◎	5 ○	1
統合医学テュートリアル	1.医学・生物学、とくに発生・加齢・腫瘍・免疫・感染症の各分野における生命現象を科学的に論理で理解し、未解決問題を発見し、解決する能力を養う。 2.英文原著論文等を自学自習して科学的な根拠をもとに論理的思考能力を養う。 3.学習成果を口頭および文章で明確に発表できる能力を習得する。	1.必要な課題を自ら発見できる。 2.自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる。 3.課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。 4.課題の解決にあたって、他の学習者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。 5.講義、国内外の教科書・論文、検索情報などの内容について、重要事項や問題点を抽出できる。 6.患者や疾患の分析をもちに、教科書・論文から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。 7.検索・検出した医学・医療情報から新たな課題・仮説を設定し、解決に向けて科学的探究(臨床研究、疫学研究、生命科学研究等)に参加することができる。	10 ○	10 ○	20 ◎	20 ◎	20 ◎	20 ◎	20 ◎	0.5
自己開発コース(学内)	1. これまでに学習した医学・医療・福祉の知識を基盤として、各自が取り組む課題を見出す。 2. その課題を解決するために研究・社会活動を実践し、その活動を通してリサーチマインドを育む。	1. 必要な課題を自ら発見できる。 2. 自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる。 3. 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。 4. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報などの内容について、重要事項や問題点を抽出できる。 5. 生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる。 6. 患者や疾患の分析をもちに、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。 7. 検索・検出した医学・医療情報から新たな課題・仮説を設定し、解決に向けて科学的探究(臨床研究、疫学研究、生命科学研究等)に参加することができる。	20 ◎	10 ○	5 ○	5 ○	30 ◎	30 ◎		6.5
自己開発コース(学外)	1. これまでに学習した医学・医療・福祉の知識を基盤として、各自が取り組む課題を見出す。 2. その課題を解決するために研究・社会活動を実践し、その活動を通してリサーチマインドを育む。	1. 必要な課題を自ら発見できる。 2. 自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる。 3. 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。 4. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報などの内容について、重要事項や問題点を抽出できる。 5. 生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる。 6. 患者や疾患の分析をもちに、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。 7. 検索・検出した医学・医療情報から新たな課題・仮説を設定し、解決に向けて科学的探究(臨床研究、疫学研究、生命科学研究等)に参加することができる。	20 ◎	10 ○	5 ○	5 ○	30 ◎	30 ◎		9
修学論文テュートリアル	1. 科学的な考え方に基づいた論文作成法と発表方法を習得する。 2. 取り組んだ課題を論文としてまとめ、発表する。	1. 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。 2. 実験・実習の内容を決められた様式にしたがって文書と口頭で発表できる。 3. 必要な論文情報や研究データを収集することができる。 4. テーマに関する研究背景や最新知見を説明することができる。 5. 研究方法や研究データの解析法を説明することができる。 6. 研究データや論文情報に考察を加え、研究討論することができる。 7. 得られた研究情報、知見、考察を学術論文にまとめることができる。	20 ◎	10 ○	5 ○	5 ○	30 ◎	30 ◎		4

学部・研究科等のカリキュラム		学科・研究科等のDiploma Policy(DP) (◎=DP達成のために、特に重要な事項、○=DP達成のために、重要な事項、△=DP達成のために、望ましい事項)								
ユニット名	授業科目の主題(簡条書) (この授業科目における中心となる 目・問題・テーマ等を簡条書に記入す る)	授業科目の到達目標(簡条書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を 学生が主題で行なう行動を使用して簡条書に記入する)	1. 医療基礎力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッナリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	5. 自己開発力	6. 科学的探究力	7. 総合的診療能力	単位数
基盤系特別専門講義1	1.学術的視野をもち、未解決の課題に創造的 態度で取り組む医師となるために、最先端の 基礎医学研究を対象とする。 2.対象とする基礎医学研究における課題を 自ずから見だし、解決法を追求する方法を学 習する。	1.必要な課題を自ら発見できる。 2.自分に必要な課題を、重要性・必要性に 照らして順位づけできる。 3.課題を解決する具体的な方法を発見し、課 題を解決できる。 4.課題の解決にあたって、他の学習者や教員 と協力してよりよい解決方法を見出すことが できる。 5.適切な自己評価ができ、改善のための具 体的な方策を立てることができる。 6.講義、国内外の教科書・論文、検索情報な どの内容について、重要事項や問題点を抽出 できる。 7.科学的根拠に基づいた医療の評価と検証の 必要性を説明できる。	20 ◎	20 ◎	20 ◎		20 ◎	20 ◎		2
基盤系特別専門講義2	1.学術的視野をもち、未解決の課題に創造 的 態度で取り組む医師となるために、最先端の 基礎医学研究を対象とする。 2.対象とする基礎医学研究における課題を 自ずから見だし、解決法を追求する方法を学 習する。	1.必要な課題を自ら発見できる。 2.自分に必要な課題を、重要性・必要性に 照らして順位づけできる。 3.課題を解決する具体的な方法を発見し、課 題を解決できる。 4.課題の解決にあたって、他の学習者や教員 と協力してよりよい解決方法を見出すことが できる。 5.適切な自己評価ができ、改善のための具 体的な方策を立てることができる。 6.講義、国内外の教科書・論文、検索情報な どの内容について、重要事項や問題点を抽出 できる。 7.科学的根拠に基づいた医療の評価と検証の 必要性を説明できる。	20 ◎	20 ◎	20 ◎		20 ◎	20 ◎		1
Open Science Club			10 ○	10 ○	10 ○	10 ○	20 ○	40 ◎		0
SCEA/AMRA			10 ○	10 ○	10 ○	10 ○	20 ○	40 ◎		0
臨床医学序説	1.臨床医学の学習を開始するにあたり、診 療の構造を理解する。 2.患者中心の医療の基本となる問題志向 型診療計画や記録法を理解する。 3.画像検査の原理を理解し、読影のため の基礎知識を修得する。 4.外科治療に関する基礎知識を修得す る。	1.医療面接、身体診察、各種検査、診断、 治療についての基本的な事項を説明でき る。 2.診療録の役割、記載の義務、記載の原則 を理解し、医療面接および身体診察所見の 診療録記載ができる。 3.X線診断、CT、MR、超音波診断の原理 を理解し、画像表示の要点を説明できる。 4.造影検査、造影剤について説明できる。 5.基本的な手術手技を説明できる。 6.外科侵襲の生体反応を説明できる。 7.創傷治癒過程を説明できる。 8.術前・術後の合併症とその対策について 述べる 9.移植医療の現状および移植免疫反応と免 疫抑制の方法について説明できる。	10 ○	10 ○	30 ◎	10 ○	10 ○	10 ○	20 ○	1
遺伝子病態学	1.疾病の病因及び病態を遺伝子レベルで 理解する。 2.遺伝情報の伝達の仕組みとその異常に よる疾患発症のメカニズム、診断、治療 への応用方法を修得する。 3.遺伝性疾患に関する倫理的配慮の必要 性について理解する。	1.遺伝子の構造、発現調節とその異常の概 略について説明ができる。 2.遺伝子変異と表現系について説明できる。 3.遺伝因子と環境の相互作用について概 略が説明できる。 4.代表的な遺伝性疾患の病態を説明でき る。 5.体細胞遺伝子変異による疾患の診断・治 療法について説明できる。 6.遺伝カウンセリングの基本理念と実施に 必要な基礎知識について説明できる。	30 ○	10 ○	10 ○			10 ○	40 ◎	0.5
感染症学	1.感染症に対して造詣を深める 2.感染症の臓器特異性を理解する 3.臨床実習に臨むに際して感染予防対策 を習得する。 4.薬学的治療中の感染症、特に手術後感 染や日和見感染症について理解すること ができる。 5.新興感染症について最新の知識を獲 得できる	1.ヒトに病原性を有する細菌、ウイルス、 真菌を列挙できる 2.血液検査や細菌学的検査を解釈し感染 症の診断ができる 3.感染症の診断結果をもとに適切な治療 方法を列挙できる 4.臓器特異性のある感染症を列挙できる 5.感染予防対策について述べる 6.抗菌剤の適正使用について述べる 7.日和見感染症や術後感染症など特異な 条件での感染症について述べる	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	1
臨床腫瘍学	1.臨床における悪性腫瘍の診断、治療、 予防について総合的・横断的に理解する。	1.悪性腫瘍の予防について説明できる。 2.腫瘍の画像診断について説明できる。 3.腫瘍の検査について説明できる。 4.腫瘍の病期分類について説明できる。 5.腫瘍の治療について説明できる。 6.腫瘍の緩和療法について説明できる。	30 ○	10 ○		10 ○		10 ○	40 ◎	0.5
臨床検査学	1.検査項目の適切な選択ができる能力を 身に付ける。 2.異常値を正確に解釈できる能力を身に 付ける。 3.様々な検査の測定原理を理解する。	1.血液検査の目的と適応を説明し、結果を 解釈できる。 2.生化学検査項目を列挙し、目的、適応と 異常所見を説明し、結果を解釈できる。 3.免疫学検査の目的、適応と異常所見を 説明し、結果を解釈できる。 4.生理機能検査の目的、適応と異常所見 を説明し、結果を解釈できる。 5.輸血の適応と合併症を説明できる。 6.原検査の目的、適応と異常所見を説明 し、結果を解釈できる。	30 ○	10 ○		10 ○		10 ○	40 ◎	0.5



学部・研究科等のカリキュラム			学科・研究科等のDiploma Policy(DP) (◎＝DP達成のために、特に重要な事項、○＝DP達成のために、重要な事項、△＝DP達成のために、望ましい事項)							
ユニット名	授業科目の主題(簡条書) (この授業科目における中心となる 科目・領域・テーマ等を簡条書に記入する)	授業科目の到達目標(簡条書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を 学生が主体で行い達成して簡条書に記入する)	1. 医療基礎力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッショナリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	5. 自己開発力	6. 科学的探究力	7. 総合的診療能力	単位数
放射線医学	1.医療の場における画像診断の役割を理解する。 2.医療機器の特性を理解し、疾患毎に必要な検査法を理解する。 3.画像下治療(IVR)の現状を理解する。 4.医療被ばくとその対策について理解する。	1.単純X線写真の概念を理解し、胸部や腹部単純X線写真で病態が説明できる。 2.X線透視の概念を理解し、疾患毎の画像所見を説明できる。 3.CTの概念を理解し、疾患毎の画像所見を説明できる。 4.MRの概念を理解し、疾患毎の画像所見を説明できる。 5.核医学検査に用いられる各種について理解し、疾患毎の画像所見を説明できる。 6.血管造影及び画像下治療(IVR)の適応疾患や手法について理解し、疾患毎の治療法を説明できる。 7.放射線被ばくについて理解し、医療被ばくと患者被ばくについて説明できる。	30 ○	10 ○		10 ○		10 ○	40 ◎	1
消化器病態系	1.消化器系の解剖・生理・機能をもとに、消化器疾患の病因・病態を系統的に理解する。 2.消化器疾患の診断法、内科的・外科的治療法および病態経過や予後に関する総合的な知識を習得し、消化器病態系に対する臨床能力を身につける。 3.消化器疾患の一次～三次予防と消化～吸収～代謝に関連した健康増進に関する知識を身につける。	1.消化管、肝・胆・膵の各臓器の解剖・生理・機能を説明できる。 2.主な消化器疾患について、その病態生理を説明できる。 3.消化器疾患患者における医療面接、身体診察の要点を説明できる。 4.消化器関連の主な臨床検査、画像検査、病理検査について、その意義と解釈、所見、異常を示すメカニズムを説明できる。 5.主な消化器疾患について、その診断基準、進行度・重症度等の分類を説明できる。 6.主な消化器疾患について、内科的・外科的治療法の概要とその選択プロセスを説明できる。 7.主な消化器疾患の疫学、リスク因子、予防法などを説明できる。	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	2
循環器病態系	1.心臓、血管系の形態・生理・機能を理解する。 2.循環器疾患の疫学、病因・病態、診断法について理解する。 3.循環器疾患の内科的・外科的治療法、および病的経過や予後に関して総合的に理解する。	1.心周期ともなう血行動態を説明できる。 2.大動脈の枝、頭頸部と四肢の主な動脈を図示し、分布域を概説できる。 3.胸部エックス線写真と断層心エコー図から心臓、大血管の画像診断を説明できる。 4.心カテーター検査(心内圧、心機能、シャント率の測定)と結果の解釈を説明できる。 5.心不全の原因疾患と病態生理を説明できる。 6.虚血性心疾患の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。 7.主な不整脈の心電図上の特徴を説明し、治療を概説できる。 8.主な弁膜症の原因、病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。 9.心筋症と特定心筋疾患の定義・概念と病態生理を説明できる。 10.大動脈解離と大動脈瘤を概説できる。 11.循環器疾患における外科的処置の適応を判断し、リスク評価を説明できる。	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	2
呼吸器病態系	1.呼吸器系疾患の検査と病態を理解する。 2.肺の悪性腫瘍の診断と集学的治療方針を習得する。 3.呼吸器系の画像診断検査と理解し画像診断ができるようになる。 4.心血管と肺の関係を理解し肺動脈性疾患の病態を理解できるようにする。 5.呼吸器疾患の外科的手術適応となる症例を判断できるようにする。	1.呼吸機能検査の原理と呼吸機能検査の結果の解釈ができる。 2.肺腫瘍の集学的治療を説明できる。 3.呼吸不全、人工呼吸器管理について述べるができる。 4.肺高血圧症や肺血管造影症について述べるができる。 5.呼吸器内視鏡検査やインターベンション治療を理解することができる。 6.閉塞性障害、拘束性障害の病態生理を理解しこれらを呈する代表的疾患を説明できる。 7.肺移植の適応とその合併症について述べるができる。	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	1
腎・尿路病態系	1.腎・尿路・男性生殖系の発生・形態・生理・機能を理解する。 2.腎・尿路・男性生殖系疾患の疫学・病院・病態・診断法、および病的経過や予後に関する総合的な知識を習得する。 3.腎・尿路・男性生殖系疾患の診療が可能となる臨床能力を身につける。	1.腎・尿路・男性生殖系の発生・解剖・機能について概説できる。 2.腎の機能全体像やネフロン各部の構造と機能を説明できる。 3.腎・尿路の画像診断を概説できる。 4.腎疾患の原因・症候・診断と治療を概説できる。 5.腎不全の原因・症候・診断と治療を概説できる。	30 ◎	10 ○				10 ○	50 ◎	1
眼・視覚病態系	1.眼・視覚系の各臓器の形態・生理・機能を理解する。 2.眼疾患の疫学、病因・病態、診断法を理解する。 3.眼疾患の内科的・外科的治療法、および病的経過や予後に関する総合的な知識を修得し、眼・視覚器患者に対する臨床能力を身につける。	1.眼球と付属器の構造と機能を説明できる。 2.視覚情報の受容のしくみと伝導路を説明できる。 3.基本的眼科検査(視力検査、視野検査、縮瞳灯顕微鏡検査、眼圧検査、眼底検査)を列挙し、それらの原理と適応を述べ、主要所見を解釈できる。 4.角膜炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。 5.白内障の病因、症候、診断と治療を説明できる。 6.緑内障の病因を列挙し、それらの発症機序、症候と治療を説明できる。 7.眼底疾患の病因を列挙し、それらの発症機序、症候と治療を説明できる。	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	1
耳鼻・口腔・咽喉病態系	1.耳鼻・口腔・咽喉頭に関する疾患の症候及び病態を理解する。 2.耳鼻・口腔・咽喉頭に関する基本的な疾患の診断法を理解する。 3.耳鼻・口腔・咽喉頭に関する治療法について理解する。	1.耳鼻・口腔・咽喉頭分野の解剖学的な構造と生理機能の特性を説明できる。 2.感覚器としての耳鼻・口腔・咽喉頭分野の生理的な検査法を説明できる。 3.臨床症状とQOLへの影響について理解できる。 4.鑑別診断について適切に挙げられる。 5.外科的治療と術後の管理に、合併症について理解できる。 6.感覚器疾患患者の再建・リハビリテーション・サポートの重要性を理解できる。	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	1

学部・研究科等のカリキュラム		学科・研究科等のDiploma Policy(DP) (◎＝DP達成のために、特に重要な事項、○＝DP達成のために、重要な事項、△＝DP達成のために、望ましい事項)							単位数	
ユニット名	授業科目の主題(備考書) (この授業科目における中心となる科目・問題・テーマ等を備考書に記入する)	授業科目の到達目標(備考書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主題で行い動調を使用して備考書に記入する)	1. 医療基礎力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッショナリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	5. 自己開発力	6. 科学的探究力	7. 総合的診療能力	単位数
皮膚・形成外科病態系	1.皮膚疾患の症状および病態を理解するために、必要な皮膚の構造・機能・病態生理を習得する。 2.基本的な皮膚の診療ができるような臨床能力を習得する。	1.皮膚の構造・機能・病態生理を説明できる。 2.皮膚検査法を概説できる。 3.基本的な皮膚疾患の病態、診断、治療を説明できる。 4.皮膚感染症の病態、診断、治療を説明できる。 5.皮膚腫瘍の病態、診断、治療を説明できる。 6.熱傷の重症度の判定、治療方針の説明ができる。 7.発疹の種類と主な原因の列挙、所見の記述ができる。	30 ◎	10 ○	△	△	10 ○	10 ○	40 ◎	1
運動器病態系	1.運動器疾患への適切な診断および治療を行う能力を身につける。 2.運動器の診断学と病理における基本事項を理解する。 3.代表的疾患について診断の組み立てと治療方法を修得する。	1.骨・軟骨・関節・靭帯の構造と機能を説明できる。 2.徒手検査(関節可動域検査、徒手筋力テスト)と感覚検査を説明できる。 3.筋骨格系画像診断(エックス線、MRI、脊髓造影、骨塩定量)の適応を概説できる。 4.骨折の分類(単純と複雑)、症候、診断、治療と合併症を説明できる。 5.関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷の定義、重症度分類、診断と治療を説明できる。 6.腰椎椎間板ヘルニアの診断と治療を説明できる。 7.腫瘍の手術療法を概説できる。	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	1
神経病態系1	1. 2. 3.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	1
神経病態系2	1.脳、脊髄、末梢神経系およびその付属器官を含めた神経系全般の疾患を理解する。 2.救急医療の理論、診断と治療を理解する。 3.外科治療の理論、方法と手技を理解する。	1.中枢神経系と末梢神経系の構成を概説できる。 2.脳の血管支配と血液・脳関門を説明できる。 3.脳のエネルギー代謝の特徴を説明できる。 4.脳・脊髄CT・MRI検査で得られる情報を説明できる。 5.神経系の電気生理学的検査(脳波、筋電図、末梢神経伝導速度)で得られる情報を説明できる。 6.脳血管障害(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血)の病態、症候と診断を説明できる。 7.頭部外傷の治療とリハビリテーションを概説できる。	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	1
高次脳病態系	1.精神症状を呈する様々な精神障害への適切な診断および治療介入を行う能力を身につける。 2.神経生物学的、心理社会的な知識を基盤とし、各種精神障害の病態を多面的・総合的に理解する。	1.患者-医師の良好な信頼関係に基づく精神科面接の基本を説明できる。 2.患者の心理的および社会的背景を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。 3.精神科医療の法と倫理について説明できる。 4.主な精神障害の症候と診断を説明できる。 5.主な精神障害の治療を概説できる。 6.中枢神経作用薬の薬理作用を説明できる。 7.コンサルテーション・リエゾン精神医学を説明できる。	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	1
血液・リンパ・造血器病態系	1.血液細胞の分化、造血の基本と血液細胞の役割を理解する。 2.血液疾患の病態を理解する。 3.血液疾患の診断・治療について理解する。	1.正常の造血及び各血液細胞の機能が説明できる。 2.血液疾患の概念・定義を説明できる。 3.血液疾患の病態を説明できる。 4.血液疾患の病因・病態を説明できる。 5.血液疾患の診断方法を説明できる。 6.血液疾患患者の状態に応じた治療法を説明できる。	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	1
膠原病・アレルギー病態系	1.アレルギー・膠原病の免疫病態を把握し、正しく診断治療するために、基本的知識を習得する。	1.自己抗体の種類と臨床的意義を説明できる。 2.膠原病と自己免疫疾患を概説し、その種類を列挙できる。 3.関節炎をきたす疾患を列挙できる。 4.Raynaud症候を説明し、原因疾患を列挙できる。 5.基本的な膠原病の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。 6.アレルギー疾患の特徴とその症候を概説できる。 7.アナフィラキシーの症候、診断と治療を説明できる。	30 ◎	10 ○	△	△	10 ○	10 ○	40 ◎	0.5
内分泌・栄養・代謝病態系	1.ホルモンの分類、作用機序、分泌調節機構を理解する。 2.ホルモンの異常による疾患を分類し、病態と診断、治療について理解する。 3.糖、脂質、電解質等の代謝異常の病態を理解し、診断と治療について理解する。 4.乳腺疾患について理解する。	1.視床下部・下垂体ホルモンの作用と相互関係を説明できる。 2.視床下部・下垂体疾患の診断と治療を概説できる。 3.甲状腺・副甲状腺疾患の症候、診断と内科的・外科的治療を説明できる。 4.副腎疾患の病態、症候と診断を説明できる。 5.糖尿病の病因、病態、症候及び合併症の診断を理解し、治療を概説できる。 6.脂質異常症、高尿酸血症、電解質異常などの分類、病因、予防と治療を説明出来る。 7.骨代謝異常について診断土地長が概説できる。 8.肥満/やせを呈する患者の原因、診断の要点を説明できる。 9.乳腺疾患の診断と治療について説明できる。	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	1.5
男性生殖器病態系	1.男性性腺の発生を理解する。 2.男性性腺の発生に異常に基づく疾患の表現型、男性不妊の原因、前立腺の異常等を理解する。 3.男性性腺の発生異常に対する問診技術、診察法および検査・診断法と治療法を理解する。	1.生精腺の発生と性分化の過程を説明できる。 2.産生生殖器の発育の過程を説明できる。 3.陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる。 4.勃起不全と射精障害を概説できる。 5.精巣機能障害を概説できる。 6.男性不妊を概説できる。 7.男性ホルモン・女性ホルモンの合成代謝経路と作用を説明できる。	30 ◎	10 ○				10 ○	50 ◎	0.5

学部・研究科等のカリキュラム		学科・研究科等のDiploma Policy(DP) (◎=DP達成のために、特に重要な事項、○=DP達成のために、重要な事項、△=DP達成のために、望ましい事項)								
ユニット名	授業科目の主題(簡条書) (この授業科目における中心となる科目・周産・テーマ等を簡条書に記入する)	授業科目の到達目標(簡条書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行った動詞を使用して簡条書に記入する)	1. 医療基礎力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッショナルリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	5. 自己開発力	6. 科学的探究力	7. 総合的診療能力	単位数
生殖・婦人科病態系	1.内分泌機能および妊娠成立の機転を理解すると共に、内分泌異常や不妊症、女性生殖器の良性あるいは悪性腫瘍、更年期障害などの女性医学、感染症や生殖器の先天異常、婦人科全般の疾患の病態を理解し、それらの病態に対する診断法と治療法を理解する。	1.女性生殖器の発生、先天異常を理解し説明できる。 2.思春期発来や性周期における生理を理解し説明できる。 3.不妊症の診断・治療について説明できる。 4.子宮筋腫や子宮内膜症、卵巣嚢腫などの良性疾患の診断・治療について説明できる。 5.子宮、卵巣の悪性腫瘍に対する診断・治療について説明できる。 6.更年期障害や骨盤臓器脱などの女性のヘルスケアについて概説できる。 7.性感染症や女性生殖器領域の急性疾患について概説できる。	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	1.5
胎生・周産期病態系	1.妊娠および新生児の生理を理解する。 2.周産期に影響を及ぼす母体合併症、異常妊娠、胎児異常、新生児異常の病態を理解する。 3.周産期に影響を及ぼす母体合併症、異常妊娠、胎児異常、新生児異常に対する診断法と治療法を理解する。	1.妊娠・分娩・産褥での母体の解剖学的と生理学的変化を説明できる。 2.正常妊娠・正常分娩の経過を説明できる。 3.主な異常妊娠(流産、切迫流産、子宮外妊娠<異所性妊娠>)、妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、骨盤位)の病態を説明できる。 4.主な異常分娩(早産、微細頸腫、遷延分娩、回旋異常、前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離、弛緩出血、分娩外傷)の病態を説明できる。 5.主な妊娠合併症(耐糖能異常、血小板減少症、甲状腺疾患)の病態を説明できる。 6.胎児・胎盤検査法(超音波検査、分娩監視装置による)の意義を説明でき、胎児機能不全(Non-reassuring fetal status)を説明できる。 7.胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化を説明できる。 8.新生児の生理的特徴を説明できる。 9.新生児期の呼吸障害の病因を列挙できる。 10.正常児・低出生体重児・病児の管理の基本を説明できる。	30 ○	10 ○		△		10 ○	50 ◎	1
小児発達病態系	1.小児の正常な成長・発達、および小児保健の概要を学習する。 2.小児に特有の幅広い疾患を学習し、成人疾患との違いを理解する。 3.小児疾患の原因・診断・治療を学習し、その特殊性を理解する。	1.小児期における幅広い疾患を理解し、診断、病態および治療の特徴を概説できる。 2.健康小児における生理的変化および発達を説明できる。 3.小児における栄養の重要性を理解し、発達および疾患との関連について概説できる。 4.小児における予防接種とVPD (Vaccine Preventable Diseases)を説明できる。 5.小児期の主な感染症を列挙し、概説できる。 6.主な染色体異常および先天性疾患を列挙し、概説できる。	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	1.5
加齢・老年病態系	1.加齢にもなう心身の正常ならびに異常な変化・病態を理解する。 2.加齢にもなう心身の変化への適切な対応法、診断法および治療法を理解する。	1.認知症の診断と治療を説明できる。 2.高齢者の心理・精神の変化を理解し、対応できる。 3.加齢に伴う臓器の構造と機能の変化を説明できる。 4.高齢者における病態・症候・治療・リハビリテーションの特異性を説明できる。 5.高齢者における総合機能評価を説明できる。 6.老年症候群(誤嚥、転倒、失禁、褥瘡)の病態、治療と予防を説明できる。	30 ○	10 ○		10 ○		10 ○	40 ◎	0.5
麻酔・ペインクリニック	1.麻酔薬や鎮痛薬、鎮静薬の生体およびその影響について理解する。 2.周術期や疼痛時の心身の状況を緩和・制御するために、各種疾患の病態生理を理解し、安全で質の高い周術期管理と鎮痛法の基礎を習得する。	1.感覚・運動路を説明し、麻酔薬および筋弛緩薬の及ぼす影響を説明できる。 2.主な臓器(脳、心臓、肺)の循環調節と麻酔薬の及ぼす影響を説明できる。 3.循環動態、電解質、酸塩基平衡、血中ガスデータの解釈し、治療を説明できる。 4.全身麻酔、脊髄・膜下麻酔、硬膜外麻酔の適応、禁忌、合併症を説明できる。 5.急性痛と慢性痛の病態生理と治療の問題点を概説できる。 6.周術期管理における輸液・輸血の基本を概説できる。 7.心臓脳蘇生と集中治療、さらに脳死について概説できる。	30 ○	10 ○		10 ○		10 ○	40 ◎	1
救急医学	1.救急・集中治療患者に対して適切な診療が可能となる臨床能力を身につけるために必要な疾患の病態、診断、治療について理解する。	1.救急医療の現状、機能、体制について概説できる。 2.代表的な救急疾患(中枢神経系、循環器系、呼吸器系、外傷、中毒、その他)の病態生理について説明できる。 3.代表的な救急疾患における症候について説明ができる。 4.代表的な救急疾患における診断方法について説明ができる。 5.代表的な救急疾患における治療法について説明ができる。 6.救急・集中治療の病態に応じた全身管理法について説明ができる。 7.救急・集中治療患者において使用する主な医用機器の種類と原理について説明ができる。	30 ○	10 ○		10 ○		10 ○	40 ◎	1
臨床薬理学	1.薬物動態を理解する。 2.薬物血中濃度モニタリングの知識と実践を理解する。 3.薬物相互作用を理解する。 4.医薬品と食品の違いを理解する。 5.医薬品による健康被害を理解する。 6.事例から医薬品使用時の安全管理を理解する。 7.創薬、育薬のプロセスにおける治験を含む臨床研究の意義を理解し、基本的知識を修得する。	1.薬物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。 2.薬物の生体膜透過に影響する因子を説明できる。 3.薬物投与方法(経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼、点鼻等)を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。 4.薬物動態的相互作用について例を挙げて説明できる。 5.医薬品と医薬品外剤について説明できる。 6.医薬品による健康被害を事例を挙げて説明できる。 7.医薬品使用時の医療事故等についての基本的な予防、対処、改善法を説明できる。 8.医学研究と倫理、規制を説明できる。 9.臨床研究・試験、治療の違いを説明できる。 10.副作用と有害事象の違いを説明できる。 11.治験と市販後調査の違いを説明できる。	30 ○	10 ○		10 ○		10 ○	40 ◎	0.5

学部・研究科等のカリキュラム		学科・研究科等のDiploma Policy(DP) (◎＝DP達成のために、特に重要な事項、○＝DP達成のために、重要な事項、△＝DP達成のために、望ましい事項)								
ユニット名	授業科目の主題(備考書) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を備考書に記入する)	授業科目の到達目標(備考書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主題で行った行動を備考書に記入する)	1. 医療基礎力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッショナリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	5. 自己開発力	6. 科学的探究力	7. 総合的診療能力	単位数
リハビリ・緩和・終末期医療	1.リハビリテーション医学の概念・目的について理解する。 2.各疾患に対するリハビリテーションについて理解する。 3.緩和と終末期医療の意義や基本的事項を修得する。	1.リハビリテーション医学の概念について説明できる。 2.理学療法・作業療法・言語療法について概説できる。 3.循環器疾患・呼吸器疾患のリハビリテーションについて説明できる。 4.運動器疾患のリハビリテーションについて説明できる。 5.社会福祉の概念と社会保障制度(医療保険と福祉医療)について説明できる。 6.緩和医療の位置づけと実践について概説できる。 7.終末期医療の位置づけと実践について概説できる。	30 ○	10 ○		10 ○		10 ○	40 ◎	0.5
漢方医学	1.漢方を医療の選択肢の中に取り入れるようになるために、漢方医学は西洋医学とは異なる概念を持つ医学であることを理解し、日常診療における漢方の有用性を認識する。	1.漢方製剤の使い方・その作用機序・副作用等を概説できる。 2.漢方方剤の機能を科学的に概説できる。 3.東洋医学と西洋医学の診断体系および治療体系の相違を概説できる。 4.気血水と八綱の2つの概念に基づき、東洋医学の病因・病態生理を概説できる。 5.四診と方証相対を概説できる。 6.疾患と漢方方剤の実際の運用について学び、その薬効について説明できる。	30 ○	10 ○				10 ○	50 ◎	0.5
医療情報・EBM	1.医療は不確実な状況の中での科学であることを理解する。 2.情報科学とEBMの総合的な知識と技術を修得し、医療情報の収集・蓄積・評価を実践できる臨床能力・統合力を身につける。	1.患者にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で表現できる。 2.患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。 3.医療の質の評価(質の定義、クリニカルパス)を説明できる。 4.科学的根拠に基づいた医療の評価と検証の必要性を説明できる。 5.保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。	40 ◎			10 ○	30 ◎	10 ○	10 ○	0.5
放射線腫瘍学	1.放射線の特性に基づく「放射線生物学」、「放射線物理学」および「腫瘍学」における総合的知識を身につける。 2.がんの病態と放射線治療の適応を正しく判断し、応用するための臨床能力を身につける。	1.患者やその家族の持つ価値観が多様であり得ることを認識しそのいずれにも柔軟に対応できる。 2.急性腫瘍の病期分類を概説できる。 3.腫瘍の集学的治療法を概説できる。 4.腫瘍の放射線療法を概説できる。 5.腫瘍における緩和療法を概説できる。 6.放射線治療の原理を説明し、主な放射線治療法を列挙できる。 7.放射線診断・治療による副作用と障害を説明できる。	30 ○	10 ○		10 ○		10 ○	40 ◎	0.5
プレ臨床実習チュートリアル	1.臨床推論能力を養い、今後の臨床実習の学修効果を高めるために、具体的な症例に基づいた課題を用いてグループワークと自学自習によって積極的に学修していく態度を体得する。 2.症例の問題点や課題を自発的に抽出できるようになるとともに、解決するための学修方法を習得し、実際に臨床現場で応用可能な知識・態度を身につける。	1.具体的症例課題から臨床推論能力(臨床的な問題発見能力・問題探求能力・問題解決能力)を身につける。 2.講義、国内外の教科書・論文、検索情報などにより、重要事項や問題点を抽出できる。 3.グループ学習に重点をおき、最終的にグループとして1つのプロダクト(紙レポート)を作り上げ、またプレゼンテーションできる。 4.基本的な症候・症状(ショック・発熱・血尿・蛋白尿・尿量・尿色の異常など)の原因と病態、診断の要点を説明できる。	10 ○	10 ○	20 ◎	10 ○	10 ○	10 ○	30 ◎	3.7
臨床実習入門	1.診療参加型臨床実習を前に、診療の現場で必要とされる知識、技能や態度を身につける。	1.医療面接が適切にできる。 2.身体診察(頭頸部・胸部・腹部・神経・四肢・脊柱)が適切にできる。 3.救命処置・心肺蘇生が適切にできる。 4.基本的臨床手技(手洗い・ガウンテクニック・採血)が適切にできる。 5.診療参加型臨床実習に参加する心構えができていく。	10 ○	10 ○	30 ◎	10 ○	10 ○	10 ○	20 ○	1.5
多職種連携	1.病院が多職種連携の協力の元に成り立っている現状を理解する。 2.多職種の業務内容について理解し、医師との関わりについて理解する。	1.チーム医療の意義を説明できる。 2.医療チームの構成や各構成員(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職)の役割分担と連携・責任体制について説明できる。 3.自分の能力の限界を認識し、必要に応じて他の医療従事者に援助を求めることが想定できるようになる。 4.保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。	10 ○	10 ○	30 ◎	30 ◎	10 ○		10 ○	0.7
臨床実技基本実習	1.「恰好だけの診察」を学ぶのではなく、生涯にわたって必要となる真の臨床能力を身につける。 2.プロフェッショナリズムの考え方や、必要とされるコミュニケーション能力を含めた基本的な診療手技などに関し、技能や態度を身につける。	1.医療面接が適切にできる。 2.身体診察(頭頸部・胸部・腹部・神経・四肢・脊柱)が適切にできる。 3.救命処置・心肺蘇生が適切にできる。 4.基本的臨床手技(手洗い・ガウンテクニック・採血)が適切にできる。 5.本ユニットを踏まえ診療参加型臨床実習に参加できる。	10 ○	10 ○	10 ○	10 ○	20 ◎	10 ○	30 ◎	0.8
臨床推論基本演習	1.医師として生涯にわたって研鑽し高めていかなければならない臨床推論能力について、その基本的な考え方や方法を身につける。 2.診療における問題解決型思考の概念を理解し、基本を身につける。	1.主な臨床症状について、原因や病態生理を説明できる。 2.臨床症状をもとに、身体診察や検査の要点を説明できる。 3.診療情報をもとに、診断の過程と要点を説明できる。 4.臨床診断をもとにした初期対応を概説できる。 5.問題志向型診療録を説明できる。	20 ◎	5 ○	10 ◎	5 ○	10 ○	20 ◎	30 ◎	0.5

学部・研究科等のカリキュラム			学科・研究科等のDiploma Policy(DP) (◎=DP達成のために、特に重要な事項、○=DP達成のために、重要な事項、△=DP達成のために、望ましい事項)							
ユニット名	授業科目の主題(簡条書) (この授業科目における中心となる 目・問題・テーマ等を簡条書に記入す る)	授業科目の到達目標(簡条書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を 学生が主語で行い動詞を使用して簡条書に記入する)	1. 医療基礎力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッショナリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	5. 自己開発力	6. 科学的探究力	7. 総合的診療能力	単位数
臨床実習1	1.チーム医療を理解し、チーム内での医師として必要な態度を身につける。 2.基本的な疾患の診療に関する知識と技能を修得するために、受け持ち患者の情報を収集し、診断・治療計画の立案を能動的に学習する。	1.挨拶、身だしなみ、言葉遣い等に配慮しつつ、担当患者さんやメデイカルスタッフとの円滑なコミュニケーションができる。 2.病歴聴取、身体診察を適切に行い、治療計画の立案ができる。 3.情報管理の原則(情報開示、プライバシー保護、取り扱い倫理、セキュリティ)を理解し、遵守できる。 4.POMR(問題志向型診療記録)に基づき診療情報の作成と管理法を理解し、実践できる。 5.担当患者の経過や治療計画などを適切にプレゼンテーションできる。 6.手術や手技のための手洗いおよびガウンテクニックができる。 7.チーム医療の意義を理解し、実践できる。	10 ◎	10 ◎	20 ◎	20 ◎	5 ○	5 ○	30 ◎	30
臨床実習2	1.医師として必要な態度や、基本的な疾患の診療に関する実践的な知識と技能を身につける。 2.基本的な疾患の診療において他職種と協調・協力して自ら情報を収集し、診断・治療計画を立案、討論する。	1.他職種との診療チーム構築ができる。 2.生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる。 3.患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。 4.臨床実習1の到達目標に加え、スチューデントドクターとして許容される範囲内での医療行為を実践できる。	10 ◎	10 ◎	20 ◎	20 ◎	5 ○	5 ○	30 ◎	10
地域医療実習	1.地域の医療機関等で診療参加型実習を行い、将来の専門領域に関わらず必要となるプライマリ・ケアに関する基本的知識と技能を身につける。	1.地域社会(へき地・離島を含む)における医療の状況、機能および体制等を含めた地域医療について概説できる。 2.地域のプライマリ・ケア、救急医療、在宅医療等を概説し、これに参加できる。 3.地域における、保健・医療・福祉・介護の分野間および多職種間の連携について説明し、これに参加できる。 4.地域における疾病予防・健康維持増進の活動に参加できる。 5.地域の住民・患者、医療従事者やその他関係職種と良好なコミュニケーションをとることができる。	10 ○	30 ◎	20 ◎	10 ◎	5 ○	5 ○	20 ◎	臨床実習2とあわせて10
臨床系特別専門講義	1.学術的視野をもち、未解決の課題に創造的態度で取り組む医師となるために、最先端の臨床医学研究を対象とする。 2.対象とする臨床医学研究における課題を自ら見出し、解決法を追求する方法を学習する。	1.必要な課題を自ら発見できる。 2.自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる。 3.課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。 4.課題の解決にあたって、他の学習者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。 5.適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。 6.講義、国内外の教科書・論文、検索情報などの内容について、重要事項や問題点を抽出できる。 7.科学的根拠に基づいた医療の評価と検証の必要性を説明できる。	10 ○	20 ◎	20 ◎		20 ◎	20 ◎	10 ○	2.5
実践臨床医学特論	1.実際の国家試験問題に取り組み、診断と治療の方法を学習する過程で、これまでに修得した基本的知識を整理し、かつ臨床現場でも得られた知識を応用することができる。 2.国家試験問題に解答できる能力を身につけるのみならず、日々更新される専門分野の最新の知見にも柔軟に対応することができる。	1.国家試験を見据え、必要な課題を自ら発見し、苦手分野を克服する。 2.継続的学習を行い、学修した基本的知識を整理し応用することができる。 3.適切な自己評価ができ、国家試験への方策を立てることができる。 4.国家試験対策を通して、最新の臨床へも対応できる知識を身につける。	10 ○	10 ○	20 ◎	10 ○	20 ◎	10 ○	20 ○	1